

《担当者名》坊垣暁之

【概要】

免疫システムは生体防御の中心的役割を果たしておりその破綻により様々な疾患が引き起こされる。これまでに免疫検査学IおよびIIにおいて様々な知識を習得し、さらに免疫検査学実習を通じて免疫学の基本的なしくみを自らの手で確認してきた。しかしながら、臨床現場において免疫異常が関わる疾患を理解する上では、これまで学んだ知識をさらに有機的に連結していく必要がある。そこで本講義では、免疫学システムについて様々な視点から眺めることで、免疫学について統合的に理解することを目的とする。

【学修目標】

- 1) 免疫検査学IおよびIIで学んだ知識を整理し、免疫検査の臨床的意義を習得する。
- 2) 3年次までに履修した講義で得た知識から国家試験問題を理解する能力を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1~4	オリエンテーション 免疫系のしくみ	・免疫系の構成要素 ・抗原 ・抗体 ・補体 キーワード：免疫システム	坊垣暁之
5~7	免疫機能検査	・液性免疫機能検査 ・細胞性免疫機能検査 ・食細胞機能検査 ・補体機能検査 キーワード：免疫機能検査	坊垣暁之
8~10	抗原抗体反応	・抗原と抗体の反応 ・試験管内抗原抗体反応 キーワード：抗原抗体反応	坊垣暁之
11~12	免疫検査の基礎知識	・抗体作製法 ・免疫機器の取り扱い ・検体の処理と保存 キーワード：免疫検査	坊垣暁之
13~15	免疫と疾患の関わり	・ヒト疾患における免疫の関わり キーワード：ヒト疾患の病態、ヒト疾患の診断	坊垣暁之

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験80～90%

講義課題10～20%

【教科書】

窪田哲郎他 編集「最新 臨床検査学講座 免疫検査学」医歯薬出版 第1版 2017年

【備考】

適時、プリント等の資料を配布します。

クリッカーを使用した双方向型授業を行います。

Google Formを用いて課題を提出します。

【学修の準備】

教科書の該当する項目を予習し、専門用語の意味などを理解しておいてください（80分）。

講義で用いた資料に関して復習し、理解を深めてください（80分）。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、免疫検査学の基礎的および臨床的な講義を行う。